

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号  
**実用新案登録第3142763号**  
**(U3142763)**

(45) 発行日 平成20年6月26日 (2008. 6. 26)

(24) 登録日 平成20年6月4日 (2008. 6. 4)

(51) Int.Cl. F 1  
**A 4 7 G 21/00 (2006. 01)**  
 A 4 7 G 21/00 M  
 A 4 7 G 21/00 N

評価書の請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 実願2008-2355 (U2008-2355)  
 (22) 出願日 平成20年4月14日 (2008. 4. 14)

(73) 実用新案権者 591027145  
 株式会社福井クラフト  
 福井県鯖江市戸口町24-23  
 (74) 代理人 100073287  
 弁理士 西山 聞一  
 (72) 考案者 高野 清和  
 福井県鯖江市戸口町24-23

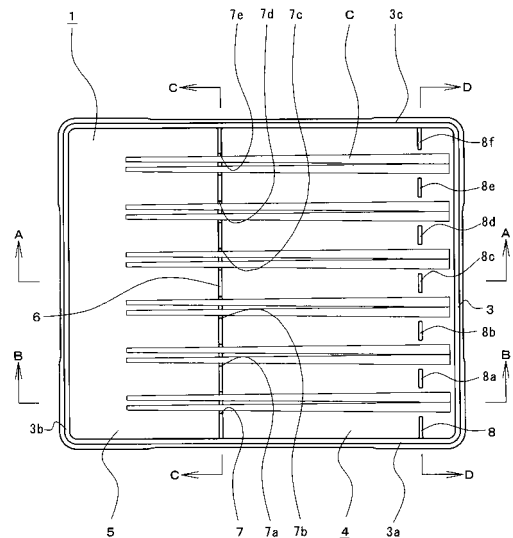
(54) 【考案の名称】 箸箱及び箸陳列具

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 陳列する箸の向きを箸先上の縦置き又は箸先横の横置きに変更することができる箸箱及び箸陳列具を提供する。

【解決手段】 枳形状の箱体4の内底面5における中央寄りに箸掛台部6を突設し、該箸掛台部6の上部に箸受溝7、7a...を凹設すると共に、該箸受溝7、7a...の終始端を箸掛台部6の側面に連通させる一方、内底面5における一側辺寄りであって前記箸受溝7、7a...の連通方向の延長線上の両脇に箸係止部8、8a...を突設することによって、箸Cの中央付近やや先端寄りを箸受溝7、7a...内に掛け置き、箸Cの後端を箱体4の内底面5における箸係止部8、8a...の間に載置し、箸Cの先を内底面5から浮かせた状態にて収納し、そのまま保管したり、陳列させる様にする。

【選択図】 図1



## 【実用新案登録請求の範囲】

## 【請求項 1】

枘形状の箱体の内底面における中央寄りに箸掛台部を突設し、該箸掛台部の上部に箸受溝を凹設すると共に、該箸受溝の終始端を箸掛台部の側面に連通させる一方、内底面における一側辺寄りであって前記箸受溝の連通方向の延長線上の両脇に箸係止部を突設したことを特徴とする箸箱。

## 【請求項 2】

内底面の対向する一对の二側辺の間の全域に亘って箸掛台部を突設し、該箸掛台部に間隔をおいて箸受溝を複数列設し、該箸受溝に対応させて箸係止部を複数突設したことを特徴とする請求項 1 記載の箸箱。

## 【請求項 3】

請求項 1 又は 2 に記載の箸箱と、該箸箱をその内底面が前方に指向された傾斜状態にて支持するスタンドとを備えて成る箸陳列具。

## 【請求項 4】

スタンドは、主脚と、該主脚に取付けられ主脚を後傾支持する副脚とを備えて成り、主脚の正面側に箸箱外底面を受承する底面支持部を設け、該底面支持部の下方にして主脚正面側に箸箱周壁外面を受承する周壁支持部を設けたことを特徴とする請求項 3 記載の箸陳列具。

## 【請求項 5】

スタンドは、周壁支持部に係合突部を設ける一方、箸箱は、周壁外面に前記係合突部が嵌入係合される係合凹部を設けたことを特徴とする請求項 4 記載の箸陳列具。

## 【請求項 6】

箸箱周壁のうち、箸係止部側の壁と、該壁に交差する壁とに係合凹部を設けたことを特徴とする請求項 5 記載の箸陳列具。

## 【考案の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

本考案は、箸を収納し保管したり、陳列するのに用いる箸箱及び箸陳列具に関する。

## 【背景技術】

## 【0002】

日本の食文化において、装飾はとても重要で、従来より、料理自体の他、箸にも工夫を凝らし、料理を飾ることで、料理を引き立て、より美味しく、また楽しく食事させる様にしてきた。

具体的には、例えば、箸に漆を塗り、その柔和で深みのある色艶にて優しい美観を醸しだしたり、螺鈿、金絵付け等の伝統的装飾技法により、日本古来の伝統美を継承し、その他形状にも工夫を凝らして、総合的美観を高めてきた。

## 【0003】

尚、出願人が知り得る範囲では、上記背景技術に記載の分野において、本件考案に関連する技術が開示されている先行技術文献は存在せず、出願人は記載すべき先行技術文献を知りません。

## 【考案の開示】

## 【考案が解決しようとする課題】

## 【0004】

ところで、漆塗りの箸は、勿論実用されるものであるが、使用後の洗浄、乾燥、保管の際、丁寧に扱わなければ、漆層上の加飾が剥げたり、漆層自体が損傷し、美観を台無しにしてしまう虞があり、例えば、料亭等の様に、高価な漆塗りの箸を一度に数多く且つ迅速に取り扱わなければならない場では、より多くの注意力を必要としていた。

## 【課題を解決するための手段】

## 【0005】

本考案は、枘形状の箱体の内底面における中央寄りに箸掛台部を突設し、該箸掛台部の

10

20

30

40

50

上部に箸受溝を凹設すると共に、該箸受溝の終始端を箸掛台部の側面に連通させる一方、内底面における一側辺寄りであって前記箸受溝の連通方向の延長線上の両脇に箸係止部を突設することによって、箸の中央付近やや先端寄りを箸受溝内に掛け置き、箸の後端を箱体内底面における箸係止部の間に載置し、箸先を内底面から浮かせた状態にて収納し、そのまま保管したり、陳列させる様にして、上記課題を解決する。

【考案の効果】

【0006】

要するに本考案は、箱体の内底面における中央寄りに箸掛台部を突設し、該箸掛台部の上部に箸受溝を凹設すると共に、該箸受溝の終始端を箸掛台部の側面に連通させたので、箸の中央付近やや先端寄りを箸受溝内に掛け置くことにより、箸先を内底面から浮かせた状態にて、箸先端側（調理物を挾持する側）を保持することが出来、衛生的である。

10

又、内底面における一側辺寄りであって前記箸受溝の連通方向の延長線上の両脇に箸係止部を突設したので、箸後端を箱体内底面に載置すれば、箸後端側（人が把持する側）が箸係止部の間に位置して、箸後端側を保持することが出来る。

つまり、箸全体を箱体内にて保持でき、箸箱を取り扱う際、箱体内で箸が横ずれして箱体内面に強く衝突することがなく、更には、箸と箸箱との接触面積が少なく、これらにより箸表面の装飾の損傷を防止することが出来る。

又、箱体を枱形状とし、周壁を設けたので、箱体に箸を収納し、これを積み上げ、多くの箸を効率良く、丁寧に保管することが出来る。

【0007】

20

内底面の対向する一对の二側辺の間の全域に亘って箸掛台部を突設し、該箸掛台部に間隔をおいて箸受溝を複数列設し、該箸受溝に対応させて箸係止部を複数突設したので、箱体内に複数組の箸を収納し、より効率良く取り扱ったり、保管することが出来る。

又、複数組の箸を収納できることから、例えば、デザインの異なる箸を複数組収納し、飲食店、箸販売店、展示会などで、そのまま箸の陳列に用いることも出来る。

【0008】

箸箱をその内底面が前方に指向された傾斜状態にて支持するスタンドを備えたので、箸箱内に収納した箸をより良く見せることが出来る。

【0009】

スタンドは、主脚と、該主脚に取付けられ主脚を後傾支持する副脚とを備えて成り、主脚の正面側に箸箱外底面を受承する底面支持部を設け、該底面支持部の下方にして主脚正面側に箸箱周壁外面を受承する周壁支持部を設けたので、かかるスタンドにより、内底面が前方に指向された傾斜状態にて箸箱を支持することが出来る。

30

【0010】

スタンドは、周壁支持部に係合突部を設ける一方、箸箱は、周壁外面に前記係合突部が嵌入係合される係合凹部を設けたので、箸箱がスタンドから滑落することなく、確実に支持することが出来る。

【0011】

箸箱周壁のうち、箸係止部側の壁と、該壁に交差する壁とに係合凹部を設けたので、箸係止部側を下にし、或いは、横に変更して支持でき、つまり陳列する箸の向きを箸先上の縦置き又は箸先横の横置きに変更することが出来る等その実用的効果甚だ大である。

40

【考案を実施するための最良の形態】

【0012】

以下、本考案に係る箸箱及び箸陳列具の実施例を図面に基づき説明する。

図1～5は本考案に係る箸箱を示す図であり、図1は第一実施例の箸箱の使用状態を箸と共に示す平面図、図2は図1のA-A断面図、図3は図1のB-B断面図、図4は図1のC-C断面図、図5は図1のD-D断面図である。

【0013】

第一実施例の箸箱1は、プラスチック製にして、図1～図5に示す様に、平板部2の周縁に周壁3、3a...を立設して枱形状の箱体4を形成し、該箱体4の内底面5における中央

50

寄りであって内底面 5 の対向する一対の二側辺の間の全域に亘って箸掛台部 6 を突設している。

箸掛台部 6 の上部には、複数の箸受溝 7、7a... が並列状態にて凹設され、該箸受溝 7、7a... の終始端を箸掛台部 6 の側面に連通させている。

【0014】

一方、内底面 5 における一側辺寄りであって、箸受溝 7、7a... の連通方向の延長線上の両脇に箸係止部 8、8a... を突設している。

つまり、箸係止部 8、8a... は、箸受溝 7、7a... に対応させて複数設けられている。

【0015】

使用する際は、箸 C の中央付近やや先端寄りを箸受溝 7、7a... 内に掛け置き、箸 C の後端を箱体 4 の内底面 5 上に載置する。

すると箸 C は、その先端を内底面 5 から浮かせた状態にて、先端寄りが保持され、後端側の両脇に箸係止部 8、8a... が位置し、箸係止部 8、8a... によって、箸 C の後端側の横ずれが規制されて、箸 C 全体が箱体 4 内の所定位置に保持されるのである。

【0016】

次に、第二実施例の箸箱及びこれを用いて成る箸陳列具について説明する。

図 6 は第二実施例の箸箱を示す平面図、図 7 は図 6 の E - E 断面図、図 8 は図 6 の F - F 断面図、図 9 は箸陳列具のスタンドの正面図、図 10 は図 9 のスタンドの右側面図、図 11 は箸陳列具の使用状態を箸と共に示す正面図、図 12 は図 11 の G - G 断面図、図 13 は箸陳列具の他の使用状態を箸と共に示す正面図である。

【0017】

箸陳列具 9 は、図 11 ~ 図 13 に示す様に、第二実施例の箸箱 1 と、該箸箱 1 をその内底面 5 が前方に指向された傾斜状態にて支持するスタンド 10 とを備えている。

第二実施例の箸箱 1 は、木製にして、第一実施例の箸箱 1 と基本的構成を同じくし、同一構成要素については、図 6 ~ 図 13 中に第一実施例の箸箱 1 の構成要素と同一の符号を付して表し、ここでの説明は省略する。

【0018】

第二実施例の箸箱 1 の特徴は、周壁 3、3a... の外面に、後述するスタンド 10 の係合突部 11 が嵌入係合される係合凹部 12 を設けたことにある。

具体的には、周壁 3、3a... の外面に溝を周設し、該溝を係合凹部 12 としているが、この形態に限らず、係合突部 11 が係合可能な係合凹部 12 が設けられていれば良く、また周壁 3、3a... のうち、箸係止部 8、8a... 側の壁 3 と、該壁 3 に交差する壁 3a、3c とに係合凹部 12 を設けるのが良い。

【0019】

スタンド 10 は、図 9 ~ 図 10 に示す様に、正面視 A 字形の主脚 13 と、該主脚 13 の背面に取付けられ主脚 13 を後傾状態にて支持する副脚 14 とを備えている。

又、主脚 13 の正面側の下部には、箸箱 1 の周壁 3、3a... の外面を受承する周壁支持部 15 を設け、該周壁支持部 15 の先端に上記係合突部 11 を上方突設している。

【0020】

使用時には、図 11 ~ 図 12 に示す様に、スタンド 10 の係合突部 11 に箸箱 1 の箸係止部 8、8a... 側の係合凹部 12 を係合させ、係合突部 11 により、箸箱 1 を支持すると共に、箸箱 1 の下端側が前方に滑落するのを防止する。

そして、箸箱 1 の箸受溝 7、7a... 内に箸 C の先端寄りを立て掛け、箸 C の後端を箸箱 1 の箸係止部 8、8a... の間に載置する。

又、図 13 に示す様に、箸箱 1 の向きを 90° 回転させ、箸 C が横向きに保持される様にしても良い。

尚、箸箱 1 に箸 C を収納した後、その箸箱 1 をスタンド 10 に装着しても良い。

【0021】

以上の通り、本実施例の箸陳列具 9 は、スタンド 10 の主脚 13 を A 字形にすることで、主脚 13 の正面側の上部を箸箱 1 の外底面 16 を斜めに受承する底面支持部 17 としているが、例

10

20

30

40

50

えば、二本の棒状の主脚を設け、該主脚間に方形平板の底面支持部17を設けても良く、要するに、スタンド10は箬箱1の内底面5を前方に指向させた傾斜状態にて支持可能なものであれば良い。

又、周壁支持部15の先端に係合突部11を上方突設し、該係合突部11の突出丈を係合凹部12の深さより高くし、該係合突部11により、箬箱1の支持と、係合凹部12に対する係合を兼役させているが、例えば、係合突部11の突出丈を係合凹部12の深さより低くし、周壁支持部15に箬箱1の周壁3、3a...の外面を支持させ、係合突部11を係合のみに用いたり、或いは、周壁支持部15だけを設ける様にしても良い。

【図面の簡単な説明】

【0022】

【図1】第一実施例の箬箱の使用状態を箬と共に示す平面図である。

【図2】図1のA-A断面図である。

【図3】図1のB-B断面図である。

【図4】図1のC-C断面図である。

【図5】図1のD-D断面図である。

【図6】第二実施例の箬箱を示す平面図である。

【図7】図6のE-E断面図である。

【図8】図6のF-F断面図である。

【図9】箬陳列具のスタンドの正面図である。

【図10】図9のスタンドの右側面図である。

【図11】箬陳列具の使用状態を箬と共に示す正面図である。

【図12】図11のG-G断面図である。

【図13】箬陳列具の他の使用状態を箬と共に示す正面図である。

【符号の説明】

【0023】

- |         |       |    |
|---------|-------|----|
| 1       | 箬箱    |    |
| 3、3a... | 周壁    |    |
| 4       | 箱体    |    |
| 5       | 内底面   |    |
| 6       | 箬掛台部  | 30 |
| 7、7a... | 箬受溝   |    |
| 8、8a... | 箬係止部  |    |
| 9       | 箬陳列具  |    |
| 10      | スタンド  |    |
| 11      | 係合突部  |    |
| 12      | 係合凹部  |    |
| 13      | 主脚    |    |
| 14      | 副脚    |    |
| 15      | 周壁支持部 |    |
| 16      | 外底面   | 40 |
| 17      | 底面支持部 |    |

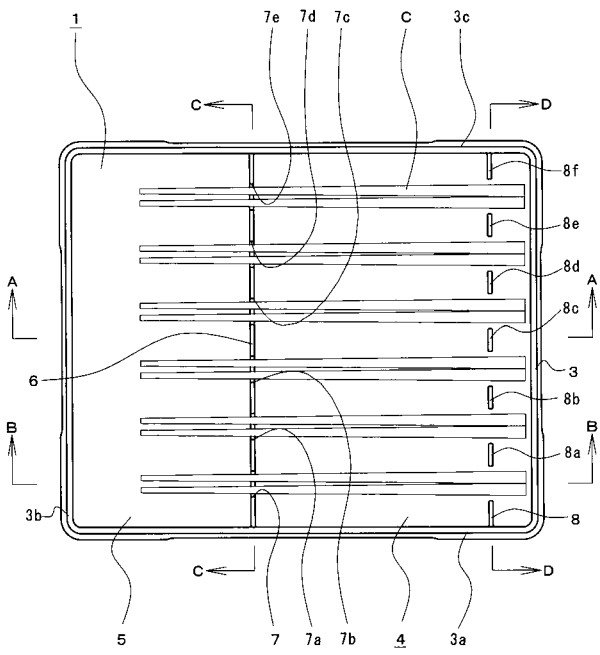
10

20

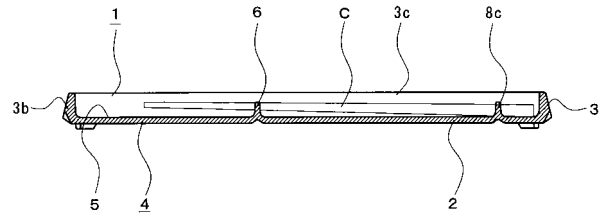
30

40

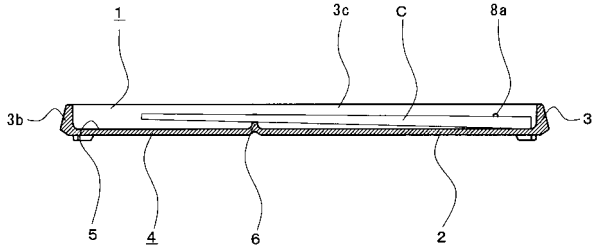
【 図 1 】



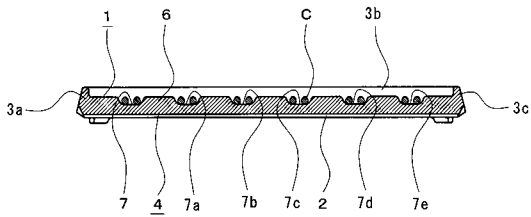
【 図 2 】



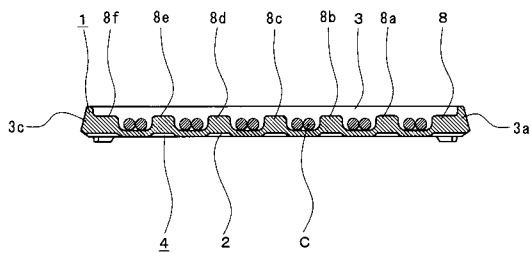
【 図 3 】



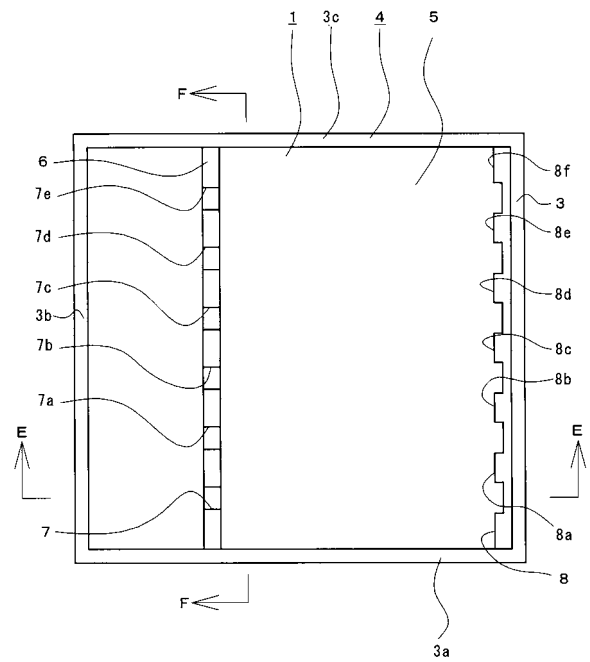
【 図 4 】



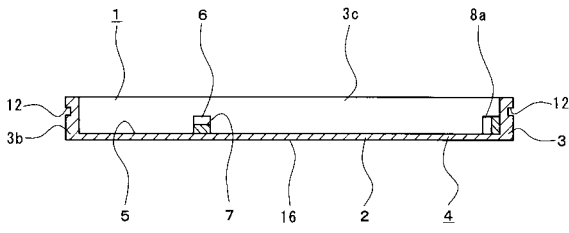
【 図 5 】



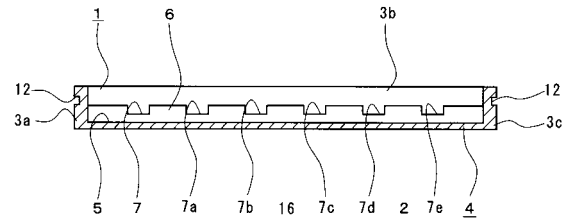
【 図 6 】



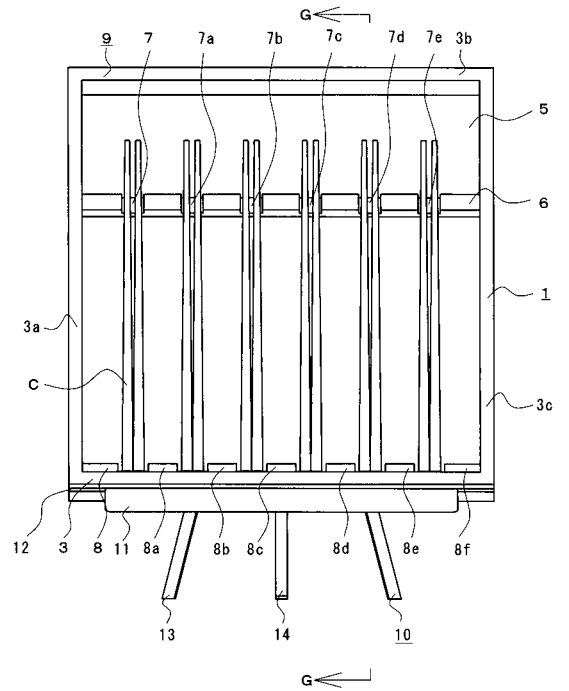
【 図 7 】



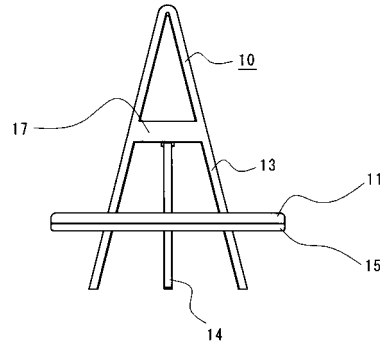
【 図 8 】



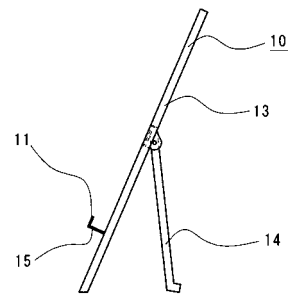
【 図 1 1 】



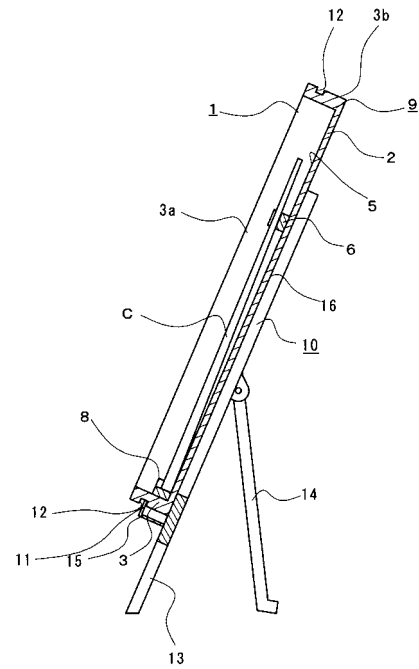
【 図 9 】



【 図 1 0 】



【 図 1 2 】



【 図 1 3 】

